

## 令和5年度第2回 旧国立駅舎運営連絡会（要旨）

日 時：令和5年9月27日（水）

場 所：矢川プラス 多目的ルーム小

出席委員：磯部委員、福住委員、宮崎委員、鈴木委員、佐藤委員、洪委員、中村委員

事務局：国立駅周辺整備課 関野課長、外立係長、藤堂係長、土崎主事

旧国立駅舎まち案内所スタッフ 磯貝チーフ

### 議事録（要旨）

○会長 皆さん、お集まりいただきありがとうございます。ちょっと体調不良が多いということで、メンバーが少なく、気合いを入れて準備をしていただいたのですけれども、気を取り直して、この人数だからこそできることもあるということでやりたいと思います。よろしくお願いします。令和5年度第2回の旧国立駅舎運営連絡会を始めたいと思います。よろしくお願いします。

今日、矢川プラスに私の思いつきでというか、前回の最後に実は思いついていたのですけれども、やはりまちの周辺の話だけではなくて、まち全体の回遊性みたいなことがずっと話題になっているのだけれども、具体的にそれはどういうことというイメージが湧かない中で、こちらの矢川に1個とてもすてきな拠点ができているということだったので、そこでみんなでちょっとふだんより手間がかかるかもしれないけれども、それで来てみるというというのが、きっと何かのきっかけになるのではないかと思ったもので、このようにさせていただきました。

それから、いっぱい資料が配られていますけれども、本当は新しい委員の方と前回、今までおなじみのメンバーの間でちょっと大分共通認識がまだまだというか、全くないという状態だったので、1回しっかり復習をしたいですねということで、これまでの経緯なり、そもそも連絡会というのは、市の中ではどういう法的な位置づけがあるものなのかということも復習しながらやりたいですねということで。

ちょっとご説明の前に資料がいろいろありまして、ちょっとなかなか小さいですので分かりにくいかもしれないのですけれども、このこちら側に貼ったのが、要は私たちがやってきたものの成果とっていいものです。それからもう一塊、こちら側の資料はより字が細かいのですけれども、どういう法的な位置づけでというお話のところで、一番大事なものは、直接的なものはこれです。字が小さくてホチキス留めになっている、これが駅舎とはどういうものかという話と連絡会とはどういうものかという話を併せてホチキス留めしていただいています。この辺りはこの駅舎が始まるに当たって、市民の方にどういうものとして説明というか、説明及び参考資料が付け足されていますということになります。

それから今日、最初のほうで事務局からお話いただくのは、似ていますけれども、横書きの3点セットです。それではないものは何なのというのも結構あるのですが、これらは参考なのですけれども、最後、このカラフルな、これは駅周辺の整備事業で、駅舎ではなくて周りの広場、ロータリーを含めた整備事業の話なのですが、その経緯、これもそれに関わるかどうかですけれども、それに当たる過去の資料等が用意していただいているので、後で意見交換するときには参照いただけるかなと思いますけれども、ひとまずそんなにそこには注意を払わなくても大丈夫かなということです。す

みません、資料の説明でございました。

では最初、この裏を見ていただいて、これが次第になっていますので、これに従って次第及び資料ですが、進めていただきます。1枚めくって、挨拶を長々とやっていますが、次の「連絡、報告」というところで、まずは藤堂さんからお願いします。

○事務局 ありがとうございます。では、こちらの資料（利活用レポート）を説明します。いつもは全部1ページ、1ページ通して説明していますが、今日は時間の関係と、新しい委員の方が現時点でまだいらしていないので、概要を説明して、その後皆さんに見ていただいて、ご質問を受けるという形を取らせていただきます。

事務局より資料に沿って「旧国立駅舎＜利活用＞レポートvol.15」に沿って説明があった。

（旧国立駅舎〈利活用〉レポートvol.15の報告終了）

○会長 どうぞご自由にばらばらと。一応基本的には時系列で並んでいますので、見ていただいて、これは気になるというのがあればご発言ください。

○磯部委員 私、残念ながら5日と6日の盆踊り、ちょっと国立を離れていたので見られなかったのですけれども、いわゆるよくある音問題とかは大丈夫でしたか。

○事務局 事前に主催者側が隣にあるマンション等にポスティングされたようで、そういった対策のおかげか苦情があったという話は聞いていません。

○磯部委員 そうですか。こういうのを続けていくとだんだん慣れてもらうというのは必要ですよ。それはよかったです。

○洪委員 私はたまたまというか行ったのですけれども、すごくいい雰囲気かどうか、駅前でこういう盆踊り、国立で。昔のノノワがやっていたとき、あちら側で見かけたことがあったのですが、ノノワ口のほうでやっていたのが1回見たことがあるのですけれども、そのときよりここだとやはりいろいろな人が立ち寄っていて、雰囲気もよくて、私もちょっと音が大丈夫かなという心配をするぐらいすごく盛大だったので。でも、なかったのよかったです。

○事務局 旧駅舎にも苦情は来ていないですし、主催者さんからも連絡は来ていない。

○洪委員 そうなのですね。

○磯部委員 こういうのは実績を積み重ねて、それこそ円形公園を含めて、みんなで丸くなってやれたりするといいですね。名物になりますよね、きっと。むしろご苦労とかありますか、全部、特別に何か苦労したとか。

○事務局 こちらのイベント全体ですか。

○磯部委員 全体で何か。

○洪委員 この期間で。

○事務局 ぱっと思い出すことがないということは、特別苦労したことはないかもしれません。

○中村委員 これ、いつももらっているやつに比べると商用利用みたいなのがあまり、最後にまとまっている感じなのですか。

○事務局 まとめ方が違うだけで変化はないです。

○会長 これは最初からこんなにやっていたか。

○事務局 当初も今も、多くて月の半分程度を上限としていて、結構埋まっています。

- 会長 これ、ちょっといつもやっている感があるよね。
- 洪委員 確かに。
- 事務局 土日は避けていただいています。
- 会長 でも、すごく宣伝。
- 磯部委員 市としては、それを規制することはできないですよ。
- 会長 そうですね、別のもので埋めておくしかないのかな、先に。
- 洪委員 ほかで埋まれば。
- 会長 ここはOTさんと話をしようについてちょっとご説明いただいてもいいですか。
- 事務局 千葉県の方の団体さんで、この企画自体は旧駅舎ではない他のところで開催したことがあって、今回、旧国立駅舎でやりたいといったお話がありました。いわゆるただの場所貸しみたいな形になってしまうことを避けるために、広間にOTさんと言われて何か分からない方たちへのパネル展示とさせていただきますとお願いして、パネルを作成していただきました。参加された方々は主催者のほうで、事前申込みの方々が参加してといった流れでした。
- 会長 市民の企画なのですか。
- 事務局 国立市民ではないです。
- 会長 取りあえず異彩を放っていたのですよね、これ、見たとき。逆の意味で。後で話になると思うのですが、だから思い出すのも何なのですかけれども、ぱっと見たら結構限られた人の好みのためのもみみたいな感じがするものを、もうちょっと広い人向けというか、社会性のあるものとして見せられるようにできるかというのは結構大事な気がするのですよね。と思ったので。作業療法士というのは何なのですか。いわゆるセラピストというのは作業療法士ではなくて、理学療法士ですよ。理学療法士は、作業療法士は何て名前でしたか。だからOTはセラピーというのが分からないけれども。
- 洪委員 やはりリハビリ関連の方みたいです。でも、やはり理学療法士と一緒に活動していると書いてあるので、その違いも分からない。
- 会長 高齢化して、そういう社会的に大事な職業だったりするとかということは十分あるのだと思うので、もしかしたらそういう意図でこういうことをやりたいと思ってくれていたのかもしれないなとは思っているので、上手にできるといいなという感じが。この左側の写真を見ると、こじんまり勉強会をしていますみたいな感じにはなっているので。以上です。何か資料がたくさんあるのですけれども、取りあえずはあまり気にせず、横書きのカラフルなやつを見といてください。今、この利活用のご報告いただいて、気になるところを聞いてくださいという感じで。
- 中村委員 個人的な興味でちょっと、9ページの嶋津さんの講演会をやっていると思うのですがけれども、これ、いつも机が欲しいという意見が結構来るのですが、そういった意見はやっぱり出ましたか。
- 事務局 展示室の狭い空間の現状を参加者の方は見て分かっているからか、机はほしいとはおっしゃらなかったのですが、バインダーというか、そういうのはないですかというのはあります。
- 中村委員 机が用意できないと、バインダーを配ってはいるのですがけれども、やはりそういうのが欲しいというのは出ますかね。
- 事務局 貸出し備品としてバインダーはありませんので、今後検討の余地がある。
- 会長 また後半のところ、これを見ながら話すというところはありますので、一旦先に進みまし

て、こちらを外立さんにご説明いただきます。

(事務局より国立駅舎周辺整備事業について説明があった)

○会長 ありがとうございます。最後のほう、いろいろ面白いです。一応この整備事業についてというのは進捗を、進めてくださっている事業をご説明いただいたという位置づけなのですけども、広場というか南口のロータリー、円形公園と東西広場、したがって面的に、全体的に整備し直すということの設計が進んでいる中で、東側は暫定的にどういう使い方ができるかというのをどんどんいろいろな方に使ってもらい、市でも使ってみるということで、いろいろやっているということのご報告でした。最後のページを御覧いただくと、小鳥書房の落合さんのところが主催で本まつりをやってくださるということで、連絡会の皆さんも活発にやったださっているところでございます。

(会長及び事務局より連絡会資料の説明があった)

○会長 ここまでご質問とか確認したいこととかございますか。

○洪委員 すみません、私からいいですか。今のお話を聞くと、ページ12のところの第10条のところ、簡単に言うと、駅舎を使おうとする人は承認を受けるわけですね。

○事務局 そうです。

○洪委員 それは、あくまで旧国立駅舎の設置の目的を妨げない範囲ということですね。

○事務局 そうです。

○洪委員 ですので、ちょっとさっきの別ページで公の施設に関しての使用で、正当な理由はない限り、住民が公の施設を利用することを拒んではならないとあるのですけれども。

○会長 拒めるね。

○洪委員 そうなのです。拒めるというか、そもそも設置目的が、この文化財としての歴史的価値を後世に伝えるということとまちの回遊性の向上及び魅力あるまちづくりの推進なのです。なので、それを妨げる行為は承認を受けることはできないという解釈で大丈夫ですか。ということですね。という確認だったので、簡単に言うと。

○事務局 妨げる場合は。

○洪委員 妨げる場合はということです。

○事務局 少し解釈の問題、法の。

○会長 「3条各号に掲げる事業に準じた事業を行う場合に限り」だから、この6個の事業を妨げない範囲で、かつ6個の事業に当てはまると言えないと駄目。

○洪委員 そうですね。

○事務局 そうなのです。だから、設置目的を明確に妨げると言うためには、非常にハードルが高いことかなと。

○磯部委員 だからこの「範囲」という文言が肝なのです。「範囲」でいうとグレーにしているところがある。

○事務局 設置の目的を妨げるということは、よほどのことがない限りないはずなのです。歴史的価値を後世に伝えるという目的を妨げるというのはどういうことなのだと。では、まちの回遊性の向上

を妨げる、魅力あるまちづくりの推進を妨げる。なかなか妨げるといえるのではないですね。

○会長 だけど、その妨げないというのをクリアした上で、その次の限っているところが大事だと僕は思うのです。「3条各号に掲げる事業に準じた事業を行う場合に限り」、「等」と書いてしまっているけれども。だからこの事業に準じていなければできないのですよね。基本、この条例上はそういうつくりになっているから、これが公の施設なのだけれども、こういうものはほかにあるのですか。こういう公の施設は、国立以外に。つまりこの公の施設なのだけれども、特別に単体で条例がかかっている。

○洪委員 かかっています。それはあります。子どもみらいセンターもそうですし。設置目的があつて、それに。

○会長 それは結構普通なのですか。

○洪委員 はい、あります。ですので、別に住民の方がやることに対して、どこまでの事業を承認するかというのもあるのですけれども、このページ11の「公の施設の使用について」はあるのですけれども、この条例上の中でもちゃんと整理してもらっているのです、何をやる場合は使えるよというのをここで整理してくれている文章なのだと改めて確認したかったというのが。

○会長 ごめんなさい、皆さん、ついてきてなかったのですけれども。これ、もう1個大事というか、オープンなもので作らなくてはいけないというのがありましたよね。

○洪委員 はい。出入り自由と書いてある。

○会長 閉め切って独占的に使わないで出入り自由。これ、どこかに書いてあつて。

○議部委員 7ページです。

○会長 これ条例に入れてあるのですか、それとも解釈ですか。

○事務局 これは条例の文章ではないです。

○会長 ということですね。これはお願いしますということですが、なぜならこれをやってしまうと、設置目的を妨げるからでしょう。違うかな。

○洪委員 本来的にはそうですね。

○会長 ということかなとも思うのです。だからさっきのOTさんのやつが気になってしまっているのは、若干独占的に使うっぽくなっている感じがあるから、それをももちろんそうではないようにご指導というか、誘導していただいたということを説明いただいたのですけれども、ということですよ。この辺を頑張って固辞しておかないと、その貸館業務ばいものが勝っていつてしまつて、断れなくなつてしまつと、上手に誘導ができなくなつていつてしまつともつたいない状況ですよ。

○洪委員 私もこのページ12の条例があるので、例えばどうかなというものがあつた場合は、この第10条の、特に2番の部分に対して、こういう設置目的があつて、かつ、こういう事業をすることに関して承認しているのですよということを伝えやすいなと思つました。

あとすみません、あとページ11の住民が公の施設を利用することを拒んではならない。もちろん前提としてどの自治体もそうなのですが、私、さっきちょっとほかの方が質問してくれて、そうかと思つた、やはり民間のスマホ教室とかがすごく多いではないですか。それに対して拒みようがないのかなと思つたのですけど、ただ拒めるのですよね。拒めると言つたら変ですが、住民ではないので、民間法人なので、それに対して、どういうスタンスでそれを承認するかというのは、運営側のほうに採択はあるなと思つています。

ただ実質あまり活用されていないとか、例えば使う人が少ないので、その人たちが使うというのは

あると思うのですけれども、やはり見え方もあると思うので。立川とかの場合も、それは市民団体も含めてですけれども、同じ部屋を同じ団体及び法人が半数以上、半数ではない、もっと少ない、3分の1ぐらい連続して、月に3割以上借りるのは多分断っています、それは市民団体も含めてです。なぜならかなり優先的になってしまうので。もちろんその貸館スケジュールで、よーいドンで入って、取れる方が取っていくというシステムなのですけれども、ただそれをすると、ほかの方が借りられないという状況になってしまうので、それは実際取れるタイミングでも、もうそれなりに予約されているときは、館でその方たちにお話をさせていただくみたいなこともしているというのがあるので。すみません、ちょっとその辺、今、12、10、特に12がちょっと気になったので確認させていただきました。

○会長 だからさっき言ったOTさんばかり言うとかわいそうなのだけれども、船橋の団体さんだから住民ではないですよとかということが、でも住民の方がその船橋の団体さんを招いてやりたいということだったら、住民のという条件になってくるから実際そうだったかもしれないのですけれども。結構断れそうなのという、洪さんがおっしゃった最後の件というのか、いろいろな人に開かれたという条件をクリアしようとする、やはり一部の人が何度も使うみたいなものは制限しないと駄目なのですよ。

これは僕、スポーツ施設の研究していたことがあるのですけれども、これは自分で調べたことではないですが、聞いたところだと、そのパリとかだと上限があって、同じ人が何度も取れないようにテニスコートとかもさせているそうなのですけど、日本の施設は早い者勝ちで、だから架空の団体みたいなものを1人でいっぱい作ったりして、それでわあっと抽選でやってみてみたい。要するにそういう手間暇をかけられる人が有利になってしまうようになると、困っている人は、ほかの人が、忙しい人は抽選に行けないから全然取れないとかということになったりとか、施設だったらあれですけれども。せっかくいろいろと条件をつけながら作った公の施設で、これをうまく利用してというか、当初の目的を達成する運用ができるとやはりいいですよ。すみません、そんな話をしています。分かっているよという感じがしましたけれども。

ほかにございますか。ここまで一応聞いていたのは、今みたいな、ちょっと原則に戻って確認しているところでございます。ほかにございますか。もしかしたら、よく御覧になるのかもしれないのですけれどもいらっしゃるの、この後も出てくるのですけれども、お話しすると、そういう意味でも8ページの代表的なことが書いてあるのですけれども、申請の流れというのがあって、この事前相談というのが挟まっているとか、単なる貸館業務ではないということがこだわりだったのです、最初の設計としては。ですので、どこかで申請をぼんと入れたら「はい、どうぞ」ではなくて、事前相談の中でこの事業の目的、さっきの6つの目的にかなうかどうかというところをすり合わせながら、正式な申請に持って行ってもらうというプロセスが入っているというのが、特徴的な原因だったりします。ここがやはりすごく大事ですということで、1期目にはこういう事前相談というところが、よりその目的にかなうものになるやり方ができるかどうかしていけるためにということで、連絡会のメンバーでロールプレイというのをやって、お互いに提案を持ってきてくださった人のものを受け取って相談に応じるというのを、ロールプレイでやっています。相談シートというのを改善するというのをやったりしているのですけれども、そういうことです。

もう1個、しゃべりすぎかな。特徴的なのは、その設置要綱の13ページと14ページをつけていただいたのですけれども、意見交換という言い方が繰り返されていて、これはつまり懇談会等というカテ

ゴリーに入っている者は、力を持った提案みたいなのは、ここで何かを決めて、それに基づいて、それを正式に市民などに答申みたいものを提出されて、それに基づいて行政がやっていくという建付けではなくて、もうちょっと緩い中でやっていくというところがポイントだと。ですので、そういう意味で、そこをちょっと確認という意味で資料をつけてもらいました。

ここからは15ページに戻っていただきます。15ページが連絡会、実績というところで、藤堂さん、お願いします。

○事務局 15ページを説明します。まず第1期、令和元年の12月から令和3年3月までの連絡会です。基本的に時系列でどのようなことがなされたか並んでいます。1つはオープニングイベントであったりとか、利活用、駅舎活用のアイデア出しをして、前回この1年後、3年後、10年後の旧国立駅舎と国立のまちの姿、施設の将来像実現に向けてといったことだったり話されました。

その後だんだん旧駅舎だけではなくて、旧国立駅舎周辺についての検討も連絡会で報告したりするようになってきます。事前相談等の改善、検討として事前相談等のロールプレイを行ったのが第2期になります。その右のホワイトボードにある2019年とか2022年、去年です。

15ページ、第2期、令和3年4月から今年の3月までのところ、駅舎周辺の整備についてです。旧国立駅舎と東西広場の活用について。そういった中で令和3年11月に連絡会において、ウォールメッセージのイベントを実施していただきました。

その後、広場等整理のアンケートの素案や、この広場等の整備基本方針の素案についてもご意見を頂きました。旧国立駅舎の将来像、前期のときに作っていた「1年後、3年後、10年後の姿」とそれまでの利活用実績を重ね合わせたところも報告をしました。昨年度の連絡会がどういった目標にしていこうかといったときには「定着、展開、チャレンジ」や、「国立と谷保、矢川方面をつなぐ」といったキーワードが出されました。その後ゲスト2名を呼んでお話を聞いたこと、昨年11月に仮囲いを使った「らくがきひろば」を実施していただいたのが、駅舎連絡会の実績になります。

17ページ目です。こちら、旧国立駅舎3年間の総括としまして、庁内でまとめております。成果としては年間100件以上のイベント利活用実績があります。多種多様なイベントが開催されました。観光案内機能は近隣の自治体と比較してなのですけれども、住民は充実しているほうだと。対面のまち案内があつて、比較的タイムリーな情報発信を行っている。年間42万人の来館者。待ち合わせ場所や休憩場所として多くの市民に利用されている。プレイピアノによって、より魅力的な憩いの空間の創出ができたといったところを成果に挙げています。

では、次に課題です。この課題がひょっとしたら運営連絡会でご意見いただくうえで大切なヒントになるかもというところで載せています。先ほど鈴木会長からもご指摘のあったイベント、貸館化しているところが1つ課題として挙げております。コロナですとか諸事情で一旦飲食イベントを制限していたのを完全に解禁するといった課題に挙げています。国立駅周辺地域と連携したイベントをもっと拡充したらどうかといったことや物販の販売方法をもっと工夫する余地があるのではないかと、例えば広間で売るとか、イベントと物販で連携が取るようにするとか。

次に、駅前の立地で来館者が多く、またイベントの活用頻度が高い。全国的にもこのような公共施設は珍しく、そういった特殊性ゆえに生じるトラブルの対策が課題ではないか。管理運営の効率化、ここは業務委託内容の見直しなどを進めていくことと全体的にマンネリ化といったことなどが挙がっています。物販商品ですとか常設展も含めた展示物のリニューアルですとか、四季に応じた変化は、ささやかながら一応やってはいるのですが、このような意見もありました。最後、施設が狭いについ

て。利活用できるエリアがそもそもない、貸出備品などを保管する場所も不足しているといったことを課題として挙げています。次のページです。連絡会の設置目的に適正な管理と書かれていますが、イベントの利活用レポートとか先ほどのリストを見て、管理の上で気になるところがあればその都度ご意見をいただきたいところです。もう1つの設置目的の旧国立駅舎を拠点して魅力あるまちづくりを推進するということをなぜ掲げるかということ、条例のもと旧駅舎の活用をもってまちの回遊性の向上、魅力あるまちづくりの推進に寄与するといった文言があります。魅力あるまちづくりの推進を補足しますと、例えば先ほど外立から報告があったような、東西広場ですとか、駅前広場、円形公園の整備についてご報告して、ご意見をいただいたといったところになります。

そして、まちの回遊性についてというのが次の19ページになります。そもそもまちの回遊性は人によってイメージする規模ですとか、手段というのは異なるのではないかとということがあり、思いつくキーワードとして、旧駅舎からの回遊を促すもの、市内で回遊の拠点になり得るところ、回遊の手段、徒歩なのかバスなのかとか、そういったものを列挙しまして、今回矢川プラスで開催したというところにもつながっていくのですけれども、お示しさせていただきました。

○会長 ありがとうございます。福住さん、何かお聞きになりたいことはありますか。

○福住委員 何でもいいのですか。

○会長 はい。

○福住委員 ごめんなさい。これ、今年度2回目ですよ。これを今、おさらいするのはなぜなのでしょう。

○会長 1回目のときにできなかったからです。

○福住委員 ああ、そうなのですね、なるほど。

○会長 そうなのです。今日お三方が残念ながら欠席なのです。急遽欠席なのです。

○事務局 体調不良の方が4人、今日も。

○福住委員 そうなのですね。

○会長 今回はその、もう知っているよねという、僕らがちゃんと思い出しつつ、新しい方と足並みをそろえるということで。

○福住委員 なるほど。

○会長 したかったのです。

○福住委員 これだけの資料がすごくあって、大変だろうなと思ったのですけれども、もったいない気がして、時間と紙が。

○会長 紙がもったいない。

○福住委員 だから事前に情報を送っておいてもらって、この場はちょっと遅れてきてしまったりしているんで、今日やる意見交換とかそういう時間をたくさん取れたらいいのかなと、ちょっとごめんなさい、思いました。

○会長 私どもも思っていました。ちょっと資料についてはこれ、私が直前に増やしてもらったところもあります。これはなぜかということ、やはり紙はもったいないのですけれども、サマリーだと結構この4年間大変なというか、それなりのことを積み重ねてきてはいて、それはこの連絡会の性格を分かっていたに役に立つのではないかと思ったのです。だから次に行きたいなど、次に行きたいのですけれども。次、行きましょうか。いいですか。

一応、では、私から4年間のことについてざっとということか、お話しすると、先ほどこれ、16ページ



についているこれですね、これを一番初めに作ったのです。1年後、3年後、10年後にどんなことを実現していきたいか。これを最初に作ったことによって、これを見ながら、言ったら3年後は過ぎているのです、ちょうど過ぎたのかな。ちょうど4年か。1年目は0年後から始まっているので、3年後、ちょうど来たところですけど。これに従って、これを振り返りながら、駅舎の運営がこれに沿っていくといいですねということをしておりました。

先ほど申し上げた相談シートというのが、一応つけていただいたのですけれども、これ改善後なのかしら、これを改善につなげるということをしたのが、開業して間もない頃です。これは別にやらなくてもよかったのです。市からやってくださいと言われたのではなくて、みんなで相談して、こうやってこの連絡会で何か意味のあるお手伝いができるとしたらということで、目的を自分たちで考えながら、やらせてもらったというのが1年目です。

2年目は、2期目は実際に運営が始まっていたので、このウォールメッセージ企画というのは本当に小さいものではあったのですけれども、これ何に合わせてやったのでしたっけ。市が駅前の、駅周辺整備の報告会をするときに合わせて、連絡会の有志でこのウォールメッセージというのをやると。これは駅舎で起こせる市民の交流というのはどういうものなのかというのを実験してみるみたいな。同時にこういう作業をしてお話をしていて、それぞれの委員からどんどん市民提案でイベントをやってくださったり、店長をやってくださったりということも同時に起きています。それは連絡会としてやったというよりは、自然とそのようにしてくださったという。あと、外立さんが説明してくれていた、これですね。駅周辺整備というのは駅舎の周りのことなのですけれども、これを市の方が、作業工程がある中で、どうやって進めていくかということについての意見も吸い上げてくださっていて、それが先ほどのアンケートを試しに答えてみるとかというので改善していく、これですね。ということもしましたし、その結果としてこの整備基本方針というのを作るお手伝いできて、これで今度デザインアイデアコンペが終わって、基本設計のコンペが終わるところまでつながっているところになります。

同時にこれは市民祭りのときですかね、らくがきひろば、これ、佐藤さんが非常に頑張ってください、ロータリーを広場として使ってみる社会実験のときに、駅舎の西側の広場でらくがきひろばというのを作ってやってくださったのですけれども、というのをやってみました。だから駅舎及び広場で何ができるのかということを実験していったりするという側面と、都市の整備事業を都度お手伝いするという形でやってきたのが前2期でした。

今期は、実はこの整備事業について、どんどん進めていくというフェーズに入っていて、意見交換はあまりないので、逆に旧駅舎と今後その広場ができてきたらどうするかということも含めて、市民活動がどのように作っていけるかというところのお手伝いのほうがメインになってくるというのが、今期だと私は考えております。それでいいですね。ということで、ちょっと量が多いのですけれども、こういう振り返りをさせていただいたということになっています。

どうしようかな。あと30分になってしまった。

それで今、最後の話、意見交換がしたかったところ、だからもう2回目なのですけれども、あと2.25回を使って、今年度はどうしましょうかということになっています。保険としてはどうか、もう既に議論はしていますけれども、緑色のこの表の右側「課題から」というところを一緒にクリアしていくアイデアを出したりというやり取りがちょっとできるといいですということですし、一方でもうちょっと大きい話としては、駅舎というのは駅前にどんとあるのだけれども、それがまち全体にと

って、まち全体の、この場合、回遊性ということなのですけれども、どのように役立てられるのかというチャレンジをどうやって実際できるか、そういうことになってくると思っています。すみません、自分が理解するためにしゃべっているみたいな……。というわけでどうしようかな、矢川まで来ていただいたのは、さっきの後半、まち全体の回遊性というのを。皆さん、矢川プラスに来たことはありましたか。

(何名か頷く)

○会長 さすが。福住さんはありました。

○福住委員 いや、初めてです。

○洪委員 初めてです。

○中村委員 ちょっとチラシを置きに来たぐらいで、中をよく見たのは初めてです。

○会長 見て回りたければ、みんなで見てみようと思ったのですけれども、ちょっと後回しにしましょうか。最後に、帰り際にしようかなと思います。そういうわけでどうやって進みますかね。フリーでしゃべっていただくのは、僕は出っ張ってきてしまった、いっぱいしゃべって。

○宮崎委員 駅舎のイベントについて、話合うという話ではなかったですか。

○洪委員 それもみんなでしたい感じであれば、しようみたいな話が前回出ていた気がして。名前もそうでしたね。1回目のときに、それで私たちともう1人、大学生でしたか、その人と話したときに、毎年、今、振り返ってもらった形で、そういういろいろなものを1年に1回ぐらい、全員ではないのですけれども、日程とかもあるので。1年に1回ぐらい何かしていたというのもあったので、ある意味今年は何をするみたいな話が1回目にちょっと出ていましたよね。そういう話もしていてもいいかもしれない。ちなみにすみません、ちょっと話を折ってしまってあれなのですけれども、この矢川プラスのパンフレットとかは駅舎に置いてあったりするのですか。置いてあるのですね。

○事務局 置いてあります。

○洪委員 そうなのですね。すばらしい。どうなのかなと思ったので、そこが。

○会長 駅舎でこれを見たのですけれどもとって、来た人はいますかというのは、矢川プラスの人に聞かないと分からないか。

○磯貝チーフ うちの会社で遊びに来ているのですが、土日とかの入場がむずかしいのです、人気過ぎて。それで逆に今度は駅前のできる施設とかに期待していますという人も。小さいお子様にとってはちょっとあまりに走り回ったりしてとても危険とを感じる方もいらっしゃるくらい。

○宮崎委員 すごいです。自転車置場、ここは駄目であちらに臨時で出して、土曜日はすごいです。

○洪委員 夕方に来ただけでもすごかったのに、自転車置場辺り。

○会長 市全域から自転車で、ばあっと子どもたちが来ている。

○事務局 市外からも。

○洪委員 児童館はやはりこの矢川の周辺の方向けということですよ。登録している。市内全域なのですか。

○宮崎委員 六小にあったやつをこちらに移ったので。学童と分離したという。

○洪委員 ああ、そういうことなのですね。

○会長 これ、元は何があったのですか。

○宮崎委員 都営住宅です。

○事務局 もともと都営団地があつて、都営団地がもう老朽化で建替えをしますと。建替えをするに

当たって、戸数は変えないのですけれども戸数を変えないで高さを建てる。そうすると空地ができますね。国立市さん、何かここを活用して何かしませんかということで、矢川プラスができたというなれそめです。

○会長 知らなかった。ありがとうございました。

○磯部委員 ですから、17ページの課題に乗っかっている右のほうを振り返ると2年前になるか3年前ぐらいになってしまうかな。あれは結局凍結になって、そのままになっているのですけれども、このようになって、いずれにしてもその課題に残っているということと、先ほどもこの近くのところで話が出た、ある特定のところが使ってしまったみたいな実態がある中で、やはり幅広い、それをもっと国立市のためになる物販とか、そういうことにつなげて、それも地域的に谷保や矢川や、ということも含めて物販だったり、ちょっとしたイベントみたいなできるようにしていくのが回遊性ということにつながると思うので、その辺をもう目指していったほうがより具体的。それで凍結するに当たってやはりぶち当たったのは、その商店会や商工会の方々が、じゃあ誰がやるのだよみたいな。いわゆる彼らの中での順番だとか、誰がやるのみたいな。

○洪委員 マネジメントとか。

○磯部委員 マネジメントとか、それから誰を選んで、誰を選ばないのみたいなところで、それはこちらがタッチすべき話ではなくて、うまくやってくださいという話だったのです。興味は持ってくれるのだけれども、では、どの業界でやるのか、どういった飲食物でやるのかということ、やはり商店会を越えたり、商業協同組合でうまくやってくれば、ローテーションでやるなり、今月は何々ウィークとか何々フェアみたいなものでやるとか、工夫のしどころでいろいろなことができると思うのですが、そこら辺まで、コロナがあって、場所が極めて限定的の中でやろうとしたこともあったのですけれども、その辺もう1回うまくやってもらえれば、さっきいろいろ出た、ある特定のところに使わせるというのも、いわゆるこれに書いてある、公の施設という意味での旧国立駅舎ということで、物を売っても、それが地域のためになる。あんなどころにこんなものを作っている、出す店があるのだということも分かってもらおうということでも、すごく極めて公共的な意義があると思うのです。だけれども、それは実際物を売ったり、作ったりしている人たちが自分たちからやろうと思ってくれないと、なかなかこちらからお願いしますと頼むものでもないし。だけど、誰かがその橋渡しをしないといけないのではないかなというところ。

とにかく何かやってみてよという感じがしますけどね。誰かが先にやったからうまい思いをするのではなくて、誰かがやって次につなげていって、こんなことができるのだよねという話を、商業をやっている方々にやってみて、ある意味でいうと、うまい思いをしてもらって、それをみんなに広げていくという、そんなことができるといいのではないかなと思います。

○会長 これは広場のことなのですから、イタリア商店の会というのを除いて、駅舎の人も同時に使うということでやったのですけれども、これ、物販飲食は入っていないですか。

○事務局 入っています。

○会長 これは入っている。イタリアは入っている。

○事務局 これはイタリアも入っていますし、天下市も入っています。天下市にも出店でちょっと販売したいということも想定されている。古本市も販売です。広場のほうで。

○会長 広場のほうで販売。キザニアは。

○事務局 くにジョブは、消防署の車を停めて体験させたいということで打診されているのですが、

飲食物販をやるかどうかはちょっと分からないです。

○事務局 旧国立駅舎では去年もやったのですが今年も、警察のパトカーが停まって、パトカーを見られたり、鑑識の指紋採取を体験できたりをやる予定と聞いています。

○会長 ちょっと気になるところがいろいろあるのだけど、本まつりなどはあれですよ、つまり落合さんが。

○宮崎委員 洪さんもやりました。

○洪委員 私は初回です。1年目に出店させてもらったのですがけれども、確か今年も、もともとは国立市内の出版社とか本屋さんで声をかけて、駅舎の中で販売兼お店を知ってほしいみたいな感じでされていて、多分今回借りるのは、ちょっと前に会ってお話を聞いた感じだと、それをそれぞれ市民というか、自分がおすすめの本を紹介するのか売するのか私は分からないのですが、そういう古本市なのか、そういうのも広場でやるみたいなことをちょっと聞いていました。

○会長 要は市全域から、その古本はよく分からないのだけれども、本屋さんが集まってきて、この本屋さん、実はあそこにあるのかみたいな機会にもなっているので、まさにこういうパターンの空間の使い方というのは、ある意味では理想的ですね。

○宮崎委員 物販は広場のほうにということですよ。多分この課題に挙がっている物販、飲食、イベントの解禁という、駅舎の中で販売するというのが課題ということでしょうか。

○会長 お答えしてしまうと、駅舎の外の敷地部分というのもあったのですよね。

○宮崎委員 ああ、こちらの。

○事務局 物販イベントを主に考えているのはそこ。

○会長 そこですよ。

○宮崎委員 中でも販売は、そうか、販売してもよかったですね。そうですね。

○会長 中は、販売はいいけれども、物販はやっていることはあるけれども。

○事務局 これまでも結局、外も中も多少はやっているのです。完全に駄目としていたわけではなく。

○会長 では、その物販とか飲食がオーケー、その基準が欲しいということですね、簡単に言うと。

○事務局 そうですね、ちゃんと整理をしていかなくてはならないと。

○会長 ではそれ、1個、やりましょうよ。

○宮崎委員 例えば国立市ゆかりの文豪が愛した酒とか、そういう何かがあればいいとかですか。例えばですけども、飲めるとか。

○会長 いきなりあちらに聞いてしまうと分からないから、こちらでまとめて。

○宮崎委員 そうですね、こちらで。

○会長 これはどうと言うと助かるみたいな。

○磯部委員 結局宮崎さんなんかとやろうとしたのは、当初は季節がちょっと変わっていたので駄目だったのだけれども、国立野菜を使ったもので何か作ったものを売れば、それは国立野菜を作っている人たちのためにもなるし、国立野菜のPRにもなるしみたいな。それで国立野菜を使って料理を出しているお店のPRにもなるし、みたいなことで目指そうとしたのですが、そこまではいかなかった。

○会長 その後、何う限り、結局人を出さなくてはいけないのか、野菜と。人をお店から駅前に出しておいて、売り上げがこちらは閉めないといけなかったら売り上げが下がるから、出す意味がないみ

たいな話は聞きました。

○磯部委員 「損して得取れ」なのですからけれども、本当は。最大のPRの場所だろうと思いますけどね。損得勘定があるからしょうがない。

○会長 そういうのがクリアできなかった。

○福住委員 個店が多いではないですか、国立市は。以前、役所にいたときに役所側の広場ですか、あそこの広い西側だか、あそこにキッチンカーとか商工会に絡んでもらって、定期的にマルシェみたいなのをやったらどうかと、当時の商工会の事務局の方に声をかけたことがあるのです。そうしたらやはりおっしゃるように、個店が多いので、結局そこに1人出せばお店を閉めなくてはいけません。ではその分の売上げが本当に確保できるのか、できるかできないか分からない商売はやはりできないわけです、個店は特に。だからもしかしたらその定期的にマルシェみたいなものを、例えば矢川とか、向こうのほうからのものも駅舎に持ってきて、すごくいいものがあるのですよというのを分らせるためには、ここでもその仕組みを考えてあげて、やり方を。そのやり方がいいものであれば、多分やってくれると思うのです、商工会とか巻き込んで。だけれどもそこがはっきりしないで、こういうものをやったらどうといても、絵に描いた餅になってしまって、実現がしにくくなる。

○磯部委員 ネットになっているのがそうだと、そういうお話だと、結局人と手間の話が主なのですよね。

○福住委員 そうですね。今、例えば天下市とか大きなイベントは必ず稼げるではないですか。だから人もアルバイトを雇ったりとかできると思うのですけれども、初めてのことで、どのぐらい集客が見込めて売上げが上げられるかということを考えたときに、それが確保できなければ、お店を閉めてまでとか、人を雇ってまでというわけにいかないと思うのです。だからその仕組みをここでそこまで考えてあげられたらやれるかもしれないですよね。

○洪委員 本当にそうですね。多分個々だとハードルを感じている部分があるわけですよね、駅舎のところでもやろうということに対して。いろいろなハードル、人集めもそうですね、調理の問題とかもあるかもしれないので。そういう仕組みを作るというのを試して、こういうやり方だったらどうだろうみたいなものを。

○福住委員 そうですよね、例えば誰かボランティアを集めて、学生さんとかでもいいのですが、ボランティアで売ってもらおうとか。

○洪委員 私、西荻窪でお店をやっているときに、茶散歩というイベントが年に1回あって、それは店舗どうしてやっていたのですけれども、その日にお店に行くと、ただお茶が飲めるだけなのです。それもペットボトルのお茶でもよければ、ちゃんとした紅茶を出しますとか、お酒を出しますみたいな、それは無料なのです。そのときはマップが配られて、手を挙げたところはそこに載っているだけなのです。店舗側としてすごく楽というか、その日来た人にお茶を出せばいいし、その日お店を運営していればいいわけですよね。お店を運営している中にちょっと手間が入るだけです。ただ、それをしてしていると、最初は本当に小さく紙コップとかで始めたのに、陶芸をやっている人たちが茶散歩コップというのを売り出して、毎年売り始めたりとか、浴衣屋さんが茶散歩の柄を作ったり、うちもその日に合わせてやろうみたいなのがちょっとずつ、5年、6年になってくると、お店側もちょっと工夫できる余地があって。ですので、さっきおっしゃったのはすごくハードルを下げるというのが、どのやり方がいいのか。個人的にもやはり、もしかしたら、さっきも思っていたのが物販商品、中で売っている商品もあるではないですか、駅舎として売っている商品も。オリジナルのものはやはりあそこ

で販売して、魅力を高めて、いろいろな人に手に取ってもらうのはあると思うのですが、店舗があるところの商品をどこまであそこで売ることがいいのかと思ったりするのです、いろいろ観光案所とかも含めてなのですから。そこに回遊性という意味では、行くなれば、もしかしたら物はなくてもいいのかもしれないと思ったり、ちょっと分からないですけど。そこがすごくおいしいのだとか、いいものがあるのだというのをどう認知させるかというのができると。

○福住委員 売らなくても、アンテナショップ的な感じでサンプルが置いてあるとか、これはこのお店なのですよとかと、例えばQRをつけるとか、分からないですけども。そのようにして行ってもらおうという方法もありますよね。

○洪委員 やり方はありそうだなと今、聞いていて思いました。

○福住委員 やりやすい、どうしたら人もあまり使わなくて、お金も稼げてみたいな、商人側の立場で考えてあげないと、ちょっとやはり距離感が出てしまうと思うのです。

○磯部委員 ただ一方で、こちらから頼んでという話ではない気がするのです。

○福住委員 それはそうですね。

○磯部委員 自分のところはふだんやっけてもうかっているからそういうことを言えるわけだから。そういうのではなくて、本当にそういう人たちがばかりなのかと、商人が。だからその中であまりにもお願いしてどうぞみたいな感じでやるというのは、僕は本末転倒だと思います。

○福住委員 お願いというか提案ですかね。こういうやり方でどうですかと。

○磯部委員 だから、商工会議所とかもお話が多分、会員だったらそうなかもしれないけれども、会員ではないところでやっている人で、本当に興味がないのかとか。

○福住委員 そうですね。

○磯部委員 ちょっとあまりにももうかっているところにこちらからお願いしてというか、そういう場をどうぞみたいな感じで。だから向こうからやはりやりたいよねと思ってやらないと、多分続かないと思います。

○会長 多分もうかっているかどうかはちょっと分からないと思うのですが、もうかっていたらちょっとぐらいそこに出してもいいのだけど、個店とおっしゃったのは、多分その日の売上げがすごく大事だからという意味では。

○磯部委員 そうですね、ちょっと言葉があれでした。

○会長 かもしれないと思ったのが1つです。

○福住委員 そういうお店が多いですよ。

○会長 そうですね。あと、前、多分洪さんがそうだからという話だった気がするけれども。商店会に入っていないお店みたいな、商店会に入っていない会みたいな。

○洪委員 だから本当に福住さんが言ってくれたこういうのに声をかけてもらってすごくうれしいのですよね。入っていないと声がかからないので、みたいなものがよくあるので。

○会長 という人を応援なのだったら結構意味があるかもしれない。

○磯部委員 そうですね、それは確かに。

○洪委員 やはり、でも国立は個店が多くて、やはり閉めてしまうところもあるけど、新しいお店もできているではないですか。知らないうちに増えているなみたいに思ったりするのですけれども。そういう人たち、本当にスタートしたぐらいの人たちだと、こういう提案を含めて伝えると、お店を知ってもらおうという意味で参加しようかなと思う人もいそうな気がします。

○福住委員 続かないと思うのです、お店を見ていると。ああ、いつの間にかなくなっているというのが多いので。だからそうさせないようにするには、やはりどうしてもお願いではないのですけれども提案みたいな感じで。

○礒部委員 こんな場がありますよ、機会がありますよと。その事前相談の仕方恐らく知らないでしょうし。

○福住委員 そうかもしれないです。

○礒部委員 まとまってとか。そういうのはありますよね。

○福住委員 そうですね。仕組みから考えてあげないのかなと。

○宮崎委員 商店街があるではないですか、そのつながりがあるではないですか、小鳥書房さんみたいに同じ業種で絞ったことで、逆に成功しているということですよ。だから例えばそこを何か1つターゲットを絞ってやってみるといのもいいのかなと、今。多分いろいろなところに声をかけてしまおうと。

○福住委員 あとさっきおっしゃった、その国立ならではの歴史とか、そのお酒だったり、何でしたか、ほら、亡くなったウィスキーか何かの絵を描いたりされていた方とか。

○礒部委員 山口瞳さん。

○福住委員 とか。若い人は知らないではないですか。だからそういう歴史を掘り起こして頑亭さんとか、そういうテーマをすごく考えて、それに合った人をコーディネートして、声をかけるというのも、ここでやれたらすごく面白いかなと、今ちょっと思いました。

○会長 1月ぐらいからは空いている、すいているのでしたか。埋まってきているのでしたか。

○事務局 1月はぼちぼち埋まっている。

○会長 どこかの月を連絡会メンバーでジャックして、そういうのをばかばか入れるということができたりしたら楽しいですよ。

○宮崎委員 面白いですよ。

○洪委員 それこそ桜の時期は人がたくさん来るではないですか。ちょっと私、今、離れていますけれども、うち本屋さん、書店をやっていたとき、やれるように3階でやっていたので。路面ではないので、普通にやっていると逆に来ないです。もうみんな花見に行くし、一番暇みたいな時期になるのですけれども、本当はああいうときに何かきっかけがあって、来ている人たちは本当に桜を見つつ、多分国立のまちも楽しみたいと思ってくれているので、そういうことが。さっきお店側もすごくハードルが低い、こちら側も、何か提案する側もすごく大変なことではないみたいなことで、面白がってやれる人たちでスタートできるものがあるといいなと思います。あの時期、大きいところは多分やっていっちゃうのではないですか、商店街さんとか、もうその桜に合わせてフェスティバルとかされているので。それと被らない開催もいいのかなと思ったり。

○福住委員 それはあちらの矢川とか、矢川も来たりするのかな。でも、やはりこちらの喧騒とは違いますよね。

○洪委員 いい公園も多いですよ、桜の時期に、矢川とか谷保だと。住んでいる人しか知らない気もするし。

○福住委員 国立のそういういい歴史とか文化とかも、一緒にPRできるものを売ることができたら面白いのかなと思うのです。3年後とか10年後のこの内容はこことリンクするものですか、課題。

○会長 それはまだちゃんと見ていないのですけれども、リンクさせることはきっとできると思います。

○福住委員 リンクしてきますよね。ここに3年後にお金を稼げる場になるとあるのですけれども、これはどういう意味なのですか。

○会長 それもいろいろな意見が出た中でこれにまとめてあると思うのですけれども、最初から今みたいな話は何度も繰り返し話題にはなっていて、まさに今みたいなことです。

○福住委員 物を売ったりなどできる場所とか。

○会長 物を売ったりできることによって、地域全体の商売をしている方に活気づくということですよ。それが公の施設というのがありましたけれども、公共施設なのにお金をもうけるというのとちょっと性格が、そごが出てしまう中で、でもできるお金もうけもきっとある。公益的なお金もうけというのですか、それもあるのではないかと。

○福住委員 最初に作る時にここがすごく悩みどころだったのかなというのは覚えているのですけれども。

○会長 さっき洪さんの西荻窪の話とか、今日タリーズの、前に洪さんとばったり会ったタリーズの屋上の外のところで仕事していたら。

○洪委員 ばったり会いましたね。

○会長 そうそう。今日も行っていたのですが、そしたらピアノの音が聞こえてきて、駅舎から聞こえてきているのかなと思ったら、西友のところのエレベーターのところであって、そこから聞こえてきたのですが、あれはもう洪さん、すごいねと思ったのですけれども。

○洪委員 あれは財団さんです。

○会長 1回やってみせてくれたからいいなと思って、みんな1個ずつだったらまねできるなと思うから、まねしてくれるみたいなことが起きているのだろうし、その西荻窪のやつも最初は無料で提供するというのを1つやったら、それがビジネスチャンスだなと思った人がいるから。

○洪委員 増えていった。

○会長 そういう新しい商売をそれに引っかけてやってくれるみたいなのが、それが公的なものは、私的にどんどんやってくればいいはずのものが起きていくきっかけを作るみたいなのも、公的なものの役割なのではないかなとすごく思ったので。福住さんがおっしゃったように、続かないというところが、ああ、やりたいと思って続いてしまうきっかけを作れると、多分すごくいいのだろうなという感じがしました。

○福住委員 その集まりが定期的に、同じではなくてもいいのですけれども、例えば1か月に1回とか必ず何か違うテーマでやるみたいなことが続いていったら、その参加する人も増えてくると思うのです。続けるのがやはり難しいですよ。

○会長 そうですよ。

○福住委員 1回、2回はできると思うのですけれども。

○会長 ちょっといろいろなお話ができていて、すばらしいのですけれども、時間はどうかな。ありがとうございます。

○洪委員 私はこれまでどうしても使い方、イベントではないのですけれども、利用のイベントについてというもの、それを話すことが多かったのですが、今回物販とか展示物の部分が課題で挙がっていたと思うのですが、個人的にそこもし連絡会で話せる余地があるのであれば、それぞれの好きな



こととか得意なこととか含めてできそうだなと思ったり、文化財とか映えるしとか勝手に思っていたのですけれども。

○会長 そうですね。

○中村委員 イベントとして、その文化財はあまりうまく成立しないところもあるのですけれども、でも、それは郷土文化館としては愚直にやってもいいのかなと。あまりイベント化しない方向でやってもいいのかなと思っている部分があるのですよね。ちょっと今日話を聞いていて、もう1回人が限定されない使い方というところがあったと思うのですけれども、何ページだったのですかね。

○洪委員 独占的に使わないというところ。あとここにも書いています、1年目にも、誰もが使いやすい状態にするのが入っていますし。

○磯部委員 7ページ。

○中村委員 7ページ。「出入り自由の中で使っていく」というので、最近の使われ方を見ていると、展示室のほうで多分講演会とかをやっていることが多いと思うのですよね。あそこは仕切られているから講演をやるほうはやりやすいのですけれども、通過するということから見ると、後ろは通れますけど、あまり通過しない、閉鎖的な使われ方になりやすいというのが、貸館化しているところとつながってくるのではないのかなと思っていて、前に自分がトークイベントをやったときはあちらに広場でやったのです、壁に映写して。雨が降っていたので、あまり通過して入ってくる人はいなかったのですけれども、窓からのぞいている人もいたりとか、あるいはその場で何をやっているだろうと入ってくる人もいたりとかというのがあって、そういう使い方を、せっかく事前打合せがあるので、持っていくということも必要なと思うのですよね。講演は多分募集して、お金を払って、参加費を取っているところだと、なかなか立ち止まって聞く人がいるというのを抵抗があるところもあるかとは思っているのですけど、それによって情報が広がるという意味もあるので、そういうのをもうちょっと持っていき方もあるのかななんて。私もそろそろ何かやらなくてはなと思っているのですけれども、なかなか親の介護とか入ってきてきていけないところもあるのですけど、でもまたやってみようかなと思っています。

○会長 今の空間の使い方ですね、それはかなり専門的な職業があるぐらいコツがあるし、簡単ではない、同じ展示でもあの空間に何をどのように配置するかで経験は変わるから、それは難しいよなと思って。簡単にトークはここ、並べるものはこと決めておけばそれだけでできるのだけれども、来た人によってはいつもまさにマンネリ化した経験しか提供できなくなってしまうわけですけど、その辺は今どうやっているのですかね。

○事務局 その配置については、結局は主催者様側の意図がこう飾りたいというのが当然あるので、そこは聞きます。また実際に展示物の形状であったり、その数、それによってうちの貸出備品との兼ね合いもありますし、ここにそれだけ置くのだったらこう並べるのがこういったものがありますといったものを示してお会いしたりするのです。その空間的な見せ方としては、専門家ではないので、こうがいいのだと強くは言えないです。

○会長 ちょっと専門家になりますか。

○事務局 いえいえ。

○洪委員 でも今、思い出した。私がイベントをしたとき、当時の菱沼さんにめっちゃ提案というか、結構無理難題を言われ、まじですかみたいに思ったのですけれども、結果それがやはりよかったです。よかったというか、自分だと本当に展示と考えていたのですけれども、この広間の円い椅子の中

に絶対置いたほうが良いと言われて、ええ、みたいな。

○会長 そういうのは絶対あるのです。

○洪委員 そういうのはあると思うのですよね。

○会長 そういうのを勉強するワークショップみたいものを1回企画すればいいのかな。例えば引っかけて言ってしまうんですけども、物販の、普段売っているやつをどう売るかみたいなというのは、切符売場を使って売っていますよね。そのために使う切符売場があるのかなと思っていたのです。

○磯貝チーフ 商品券を販売している。

○会長 商品券を。だから切符を買うとか、あの空間は遊べそうなのに遊べていないです。ここで矢川の、それこそ僕も好きな建築家の先生の事務所がデザインしたと聞いてうれしかったのですけれども、ここの。遊環構造といってくるくる回れたり、ショートカットできたりみたいなものは、まさに空間は、本当はそうになっていて、おっしゃるようにこちら側でトークしているけれども、全部開けてしまって、こちらをつなげればつながった空間でもあるのですよね。今、物を置いている切符売場の後ろ側、あそこは常に置いているみたいなイメージがあるので、そこが遊べない空間になったりするし、その辺は多分きっとポテンシャルがありそうな気はする。

○洪委員 本当にその動線はやはり展示をやっているとしてもどうしても広間に行くのです。それこそ本当に変な話で駅舎を知らなくて待合わせに来たとか、待合わせだけを求めてくる人は広間に行って、会ったら出ていくわけですよね。そうすると展示室には寄らないし、物販も見ないみたいな状況が多いのだと思うのです。私もそうしてしまうことがあるので。それこそ展示室に置いているものとかがちょっと広間にあるときもあるか分からないのですけれども、その物販も含めて、ちょっと中身を移動させるみたいな回があってもいいのかなと思ったりしました。

○会長 藤堂さんが朝に出勤したときに、毎日配置を変えればいいのです。評判がいいやつと悪いやつが分かってくるではないですか。

○磯部委員 ランクづけ。

○会長 楽しくなりますよ、多分。かなりいい加減なことを言って。すみません、お時間が過ぎてしまったのですけれども、ちょっと何も言ってないのですけれども。

○宮崎委員 今年何をやりたいとか。

○佐藤委員 すみません。まず貸館化しているというのが具体的にどうなっているかは、結局最後まで聞いてよく分からなくて、貸館化というのが箱貸し。箱を貸すのにコーディネートするのが足りていないのか、それともそのサポートするのが足りていないのかなみたいなのが、自分が聞いていて理解した2つ。コーディネートするというのだと、何かしらコーディネーターになって、仕切っていく。だから洪さんも言ったどこかの月をジャックするという話が個人的に面白そうかなと思ったのですけれども、月ジャックというと、1週間のイベントだとしても4本やらなくてはいけないから、めちゃ大変だなというのがもう1個。もう1個のサポートのほうをしていくのと空間の使い方、そういうもののサポートを強くしていく、そちらのほうと2つやり方があるのかなと、聞いていて思いました。個人的にはコーディネートするほうが好みだし、必要なのではないかなと思いました。

○洪委員 コーディネートするのはどちらでしたか。

○佐藤委員 コーディネートするのはイベントをやるほうです。ジャックするほうです。

○洪委員 そちらで示すほうですよね。

○佐藤委員 そういことです。それを継続的に誰がコーディネートするのかわからないで

すけれども、それが必要な時期なのではないのかなと、個人的に聞いていて思ったところが1つ。あともう1つで、回遊性というので、この前は例大祭があって、あの日たまたまうちの駄菓子屋も北口のほうでイベントをやったのですけれども、めちゃ人が来たのですよね。しかもちゃんとした格好、着替えてきている人がいて、恐らく南口のイベントに行っ、外に出て、そこを知らず、知っていて来た人もいられるでしょうけれども。だから南のほうで大きなイベントなり何なりがあったときに、結局あふれてしまう人がいて、その人たちは何らかのガイドなり何なりがあれば、あちこちに行くのだから。うちにも来るだろうし、本屋にも、ミュージアムショップにも行くだろうしというところ。多分その情報をどこで見ればいいのか分かっていないところで、それが発信してある場所という存在になって、みんながあそこに1回行けば、イベントに行かずに寄れば、その後こちら側に行けるよとか、子どもが疲れてしまったからみたいところで促せるようになったりするといいいのかなと思いました。その2つぐらいです。

○会長 ありがとうございます。すごくまとめに近いお話をしていただいたので、ありがたいです。というわけでその辺はやっていきましょうというのはどうかな。佐藤さんがおっしゃっていただいたように、多分ここで幾ら市に提案しても、市が予算を持っているわけでもないから、何とか実現する形を見せていくということが、僕らでできる範囲でできるかというところがすごく大きいのかなと思うので、ちょっとそういう方向でやってみましょうかね、今年度は。

○礒部委員 短くいいですか。今回は新しい方々が入ってきたではないですか。今度、今日用意してお休みになった方たちというのは、次までに読んでという宿題をやってきていただけるのだと思うのですが、これ作ったのが相当昔ですよ。だからある意味でいうと、アップデートして、この連絡会がいつまであるかということよりも、やはり今からスタートして、1年、3年、5年後、今までこれ、結構できていることはありますよね。3年後とか10年後の。

○会長 これにね。

○礒部委員 そうそう。だからできたことはできて、それを基に、ではそれをどうやって伸ばすかとか、できていないことをどうやってやるとかというのを、新しいメンバーの方々とアップデートして、より具体的にできていくといいのではないかなと思うのです。

○会長 ありがとうございます。ではそれもやりましょう。それは結構アップデートしようよというのは出るのですけれども、大変だったから、1回できてしまうと。ちょっとマイナーチェンジみたいなものを入れなかった。

○洪委員 見直す会みたいなものをしてもいいですよ。

○会長 1回やったら。

○洪委員 見ていて本当に、もうすぐだけれども普通に知らない人と話せるなんてまだハードルが高いなと思ったりもするので、これを見て。それを実現するにはどういうものがあるのだろうかというのは、遡って一緒に考えるといいと思います。

○礒部委員 理念的なことも多いし、これ、難しいのもあるし。

○洪委員 ここから、さっき言ってくれた使い方を見せる中の企画の1つがこういうものから出てくるみたいなものもあるのかなと思ったので。

○宮崎委員 すごく先頭を考えていた。いや、いろいろお話を聞いたら、あれかもしれないですよ。天下市でまちの案内人さんと同じように、どんなことを聞かれるかなと、ガイドブックを渡しながらというのもありかもしれないですよ。たまたまロンドンのパラリンピックのときにロンドンに

行って、すごくシティボランティアさんの人が困っている人たちにパンフレットをくれていたのです。一人ひとり丁寧に対してくれていたのです。割とそういうところから状況を把握するのもありかなと。何か仕掛けることばかり考えていたのですけれども、せっかく駅前広場ができたので、ちょっとおそろいのジャンパーでも来て、あそこの観光案内所が中に入ってしまったので、確かにもったいないなと思っていて、少しそれを私たちが外からアピールすることで誘導できると、またそれもひとつ駅舎のアピールにもなるのかなと思うのです。

○洪委員 さっき言った飲食の仕組みもこちらで考えていることと、実際お店の方が感じていることの差異はあると思うので、よく行くお店から聞いてみるみたいな、もしあれだったやる、やらないのはどうしてみたいな。それが本当に、例えばそういう人のハードルなのか、もしかしたら違うことかもしれないですし、そういうのが聞けるといいなと。

○福住委員 おそろいのジャンパーを買うお金はあるのかな。

○宮崎委員 駅舎のでいいですよ。何かあるやつで。

○福住委員 格好いいのがいいですよ。

○会長 そうやってやると出てくるもの。

○宮崎委員 ちなみにロンドンはピンクでした。

○会長 どうしよう、では次回はいつ頃やればいいですか。まず2回しかないのです。天下市に絡めたりするというと11月になるので、もう待たない話みたいなタイミングなのですけれども、ご相談を持って行って2月なり、3月なり、4月なりというところで割とイベントを並べていくみたいなことをターゲットにするなら、焦らなくてもいいという感じなのですけれども。

○宮崎委員 それこそ桜の頃とか。

○磯部委員 天下市はもう回っているし、あえて我々が突っ込む必要はないのではないですかね。むしろ端境期みたいなところでやったほうが。天下市は天下市で皆さん、忙しいでしょうから、まちの人たちは。

○会長 そうしたら、11月。

○洪委員 12月とか。

○会長 11月にやって。11月と1月みたいなタイミングで、3月にイベントをやるみたいな感じですかね。

○洪委員 前はLINEチームで、2案出たときはLINEが2つのチームに分かれて、連絡会が終わってもその中でやり取りしたりとかしたら、ちょっと進めていたりもあるので。多分今回もそうしないとなかなか進まない感があるのですけれども、でも、その辺ができるといいかなと。

○会長 というわけで、次回は提案も持ち寄るみたいなのがいい気がするのですよね。

○洪委員 そうですよ。今、大きくは、1つはその飲食のイベントがなかなかないとか、そういう何かに対して、そういうハードルが低く、一緒に面白いと思ってくれる個店の方が一緒にやったり、応援できるみたいな仕組みを作るというのが1つ出たのと、もう1つはその貸館化しているという課題に対して、使い方を見せる、コーディネートするというものと、サポートするのも考えたほうがいいかなと思って、これは後でもいいかもしれないのですけれども、サポートするほうはさっきの展示とか物販とか、もしくはイベントの見せ方みたいな部分の、大きくは3つの話になりそうだなと思うので、全部ではなくてもこれに興味があるというものを、アイデアを持ってくるのはできそうな気が。

○会長 そうですね。

○洪委員 あとは今日欠席した方にこの。

○会長 フォローアップが。

○洪委員 この熱意を伝えたいというか。

○会長 ちょっと時間がないとなったら、皆さん、どんどんしゃべってくるという。タイムマネジメントが下手くそですけど。そんな感じで、ちょっとこの人数だからこそ最後に熱気立ったような気がするのですけれども。楽しくできそうな感じが見えてきたし、最終的に関野さんが安心した顔になるというのがゴールなので。

皆さん、今日はありがとうございました。お疲れさまです。またご連絡をお待ちください。

— 了 —